

Title	日本語・日本文化 第35号 奥付
Author(s)	
Citation	日本語・日本文化. 35
Issue Date	2009-03
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/22043
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/repo/ouka/all/>

執筆者紹介（掲載順）

坂田 達紀	本センター非常勤講師 （四天王寺大学准教授）
二本松泰子	本センター非常勤講師
徐 雨菜	本学大学院博士後期課程
Harb, Hassan	本学大学院博士後期課程

編集後記

今号には、三本の研究論文と、一本の研究ノートが集まった。坂田論文は、中野重治・坂口安吾による小林秀雄批判の検討を通じて、小林の文体の特徴を明らかにしようとする試みであり、筆者の一連の小林秀雄研究を継続・発展させるものと位置づけられよう。二本松論文は、調子家文書の中の下毛野氏の鷹書、就中『鷹飼に関する口伝』を中心に、下毛野氏の鷹術について考察する。全くと言ってよほど研究の進んでいない分野であり、この論文によっても新たに明らかにされた部分は大きい。筆者の研究の今後において、地下と堂上との交流など、さらに多くの新事実が知られるところとなるであろう。徐論文は、挨拶表現におけるタ形式とル形式との使い分けについて考察した。状況を細かく分類する点、作例によるのでなく、小説から映画・ブログまで広く用例を渉猟する点、手堅さを感じさせる論文であり、今後の発展が望まれる。ハルブ研究ノートは、日本の近代化をよりよく理解するために、当時の日本の状況を同時代のエジプトの事例と比較するという、意欲的な試みである。氏の研究の発展を願う。

これらの論考はいずれも、日本語・日本文化という大きな枠組みの中で統一性を持ちながら、時代も違えば分野も大きく異なっている。さまざまな時代、さまざまな分野についての研究が進められることは、学問の発展にとって大いに喜ばしいことである。今後も多く研究成果の発表が望まれる。

『日本語・日本文化』投稿規定

1. 資格：本センターまたは関係機関所属教員（非常勤を含む）及び『日本語・日本文化』編集委員会において適当と認められた者。
 2. 内容：日本語・日本文化等に関する未発表の研究論文・研究ノート・研究報告等。
 3. 体裁：研究論文は400字詰原稿用紙50枚前後（欧文はA4ダブルスペース30枚前後）、研究ノート・研究報告は25枚前後（欧文は15枚前後）。
 4. 要旨：本文和文の場合、欧文による要旨（A4ダブルスペース1枚）を、欧文の場合は、和文による要旨（800字程度）を添付。
 5. 採否：原稿の採否は『日本語・日本文化』編集委員会が決定する。
-

編集委員

嶋本 隆光 佐野 方郁 葛 清行

日本語・日本文化 第35号

2009年3月31日 発行

編 集	大阪大学
発 行	日本語日本文化教育センター 〒562-8558 箕面市粟生間谷東8-1-1 電話 (072)730-5459 FAX (072)730-5074
印 刷	中西印刷株式会社